# 30-1　坂本竜馬を探しに品川宿へいってみる　（距離約 7km）

品川浦　船だまり

**【街歩きの概要】**

京浜急行電鉄北品川駅から青物横丁に至る旧東海道の周辺一帯は、江戸時代には日本橋に始まる東海道五十三次の第一番目の宿場町であった。人々はこの品川宿で知人と旅の別れを惜しんだのだという。

宿場の南にあたる、現立会川駅近くに立つ坂本竜馬像を目指して、海辺跡やお台場跡、そして多くの歴史が詰まった品川宿をたどってみる。

**【道順】**

京浜急行北品川駅→品川宿商店街案内所→北品川橋・船溜り→利田神社の鯨塚→台場小学校(台場跡)→こて絵の善福寺→小泉長屋の古井戸→レンガ塀の正徳寺→品川富士・品川神社（板垣退助墓・一粒万倍の泉→本光寺三重塔→レンガ塀の天龍寺→願行寺しばり地蔵→蓮長寺の古井戸→海徳寺）→荏原神社→聖蹟公園→北品川 2 丁目海岸跡石積→松岡畳店→品川寺（地蔵と鐘）→海雲寺（天井絵）→海晏寺（岩倉具視墓）→山内容堂墓→なみだ橋・坂本竜馬像→京浜急行立会川駅（見どころが多く路地も多くあるので、必ずしもこの通りでなくてもいい）

# ルートマップ

品川ふ頭
東品川五丁目
東電品川火力発電所
東品川二丁目
天王洲野球場
南部埋立地管理事務所
東品川一丁目
北品川一丁目
南品川一丁目
東品川三丁目
南品川二丁目
南品川五丁目
東品川四丁目
日本たばこ産業工場
東電大井火力発電所
八潮一丁目
大井ランプ
八潮北公園
大井清掃工場
品川区
首都高速一号羽田線
東京モノレール
海岸通り
首都高速湾岸道路
首都高速湾岸線
東大井一丁目
東大井二丁目
東大井三丁目
東大井四丁目
京浜運河
勝島運河
勝島一丁目
八潮中学校
八潮小学校
八潮地域センター
児童センター
八潮五丁目
大井ターミナル
八潮三丁目
国際救援センター

**【街歩き解説】**

①歩きの初めに

歩きの初めに、品川宿の変化を新旧の地図を重ね合わせてみる。

新旧地図の重ね合わせによって、かつての品川宿からは砂浜の先に江戸湾が、その向こうには房総半島も一望できたはずだが、今ではずっと先まで埋め立てられて、品川神社の高まりに立っても海の青は見えそうもない。

さて、東京周辺の旧街道の宿場で、当時の趣をほんの少しでも残しているところといえば、板橋宿や千住宿、そして品川宿である。中でも品川宿は、何といっても東海道の第一の宿である。西国へ旅立つものはここで友に別れを告げ、西国から江戸へ向かう旅人は、しばしの間ここで長旅の疲れを休め、あらためて身支度をととのえて、二里ほど先になる大江戸をめざしたはずである。

先に地図で見たように、品川宿を南から入ると、曲がりくねった町並みの右手には、干潮時に干潟となる広い海が、左手には寺院の甍が光る長い丘が見えたはずだ。

いまでは、とてもそのときの風景がそのまま感じられるとは思わないが、多くの歴史が詰まった品川宿を江戸（東京）方向からたどってみる。歴史が詰まったといえば、ここ品川宿の寺院などには、板垣退助（品川神社裏手、東海寺墓地）、岩倉具視（海晏寺）、土佐藩主山内豊信（容堂）などの墓（立会小学校近く）がある。また、京浜急行立会川駅近くには、かつて土佐藩品川下屋敷や浜川砲台があって、坂本竜馬がここに詰めていた関係から高知市より寄贈されたという彼の像も建立されているから、ここをめざす。

海が近かった品川浦の潮干狩り「江戸名所図会」（角川書店）

旧品川宿辺り

（1/20,00 地形図「品川駅」M14 と、1/10,000 地形図「品川」H10　以下同じ）

②北品川から

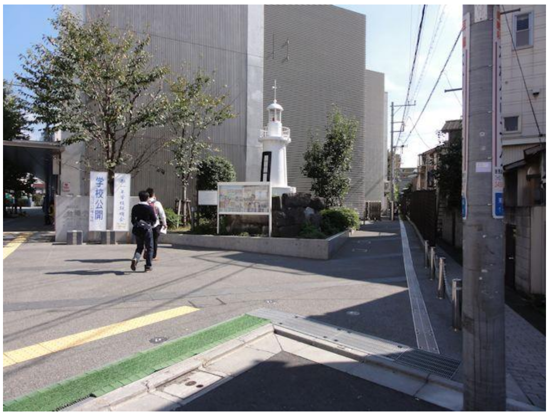
品川宿の始まりは、きれいにカラー舗装された商店街である。近くの案内所で「（品川）まち歩きマップ」を手に入れ、すぐに左手（東へ）折れて、潮の香りをもとめて船だまりに立ち寄る。北品川橋の北には屋形舟が、南には釣り舟が係留されていて、まわりがビルに囲まれていても、そこが東京湾沿いであることを教えてくれる。

その後は、旧街道を右へ、左へとトラバースしながら南へと進む。

船溜まりの南には、200 年前に品川沖に迷い込んだ鯨の骨を埋めて供養したという塚のある利田（かがだ）神社の鯨塚がある。塚そのものは、それほど興味深いものではないが、多摩川に迷い込んだアザラシに群がる現代人と当時のさまとを重ね合わせて案内板の文字を追うと、「ふむふむ」とうなずきたくなる。

そして、少し東にある台場小学校前では、せっかくだから旧版地図や古い空中写真を取りだして、現在の地形図と比較する。同小学校敷地が「御殿山下台場」跡地だったことを確認する。

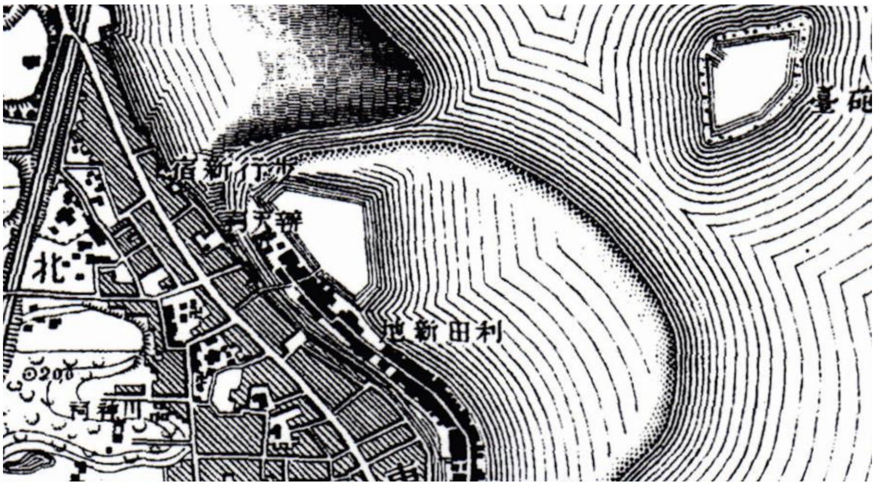
旧東海道品川宿の始まりと、品川浦船だまり

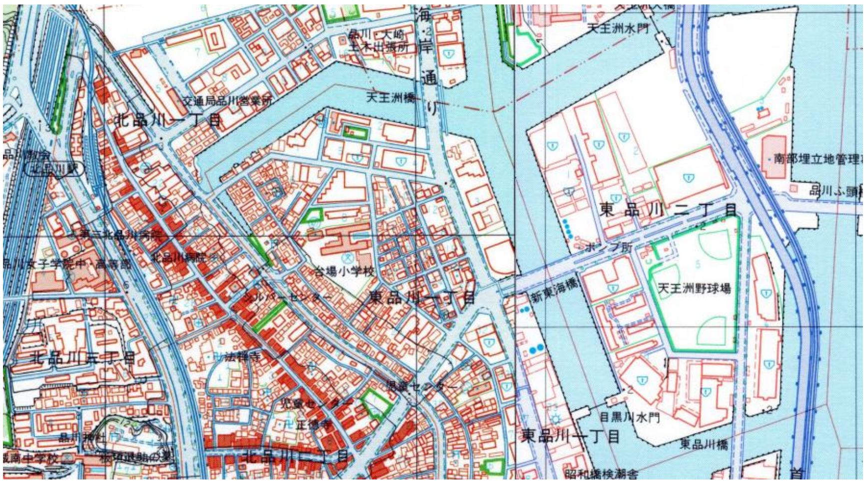



台場の跡であるに台場小学校敷地に立つ灯台のモニュメント

御殿山から北品川辺りの「江戸切絵図」（人文社）

目黒川が「御墓場」とある辺りまで洲になって延びている。これは明治の時代まで続いていたことが下の地図でわかり、ここが現在の品川浦船溜まりだ






品川神社と品川台場あたり

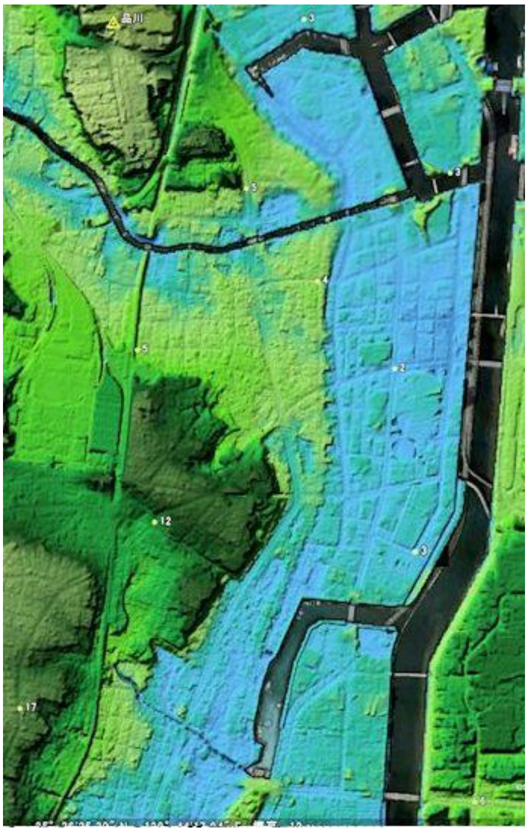
上図にある二つの台場の形が、現在の地形図からも読み取れる（台場小学校の敷地と南品川２丁目の空き地）

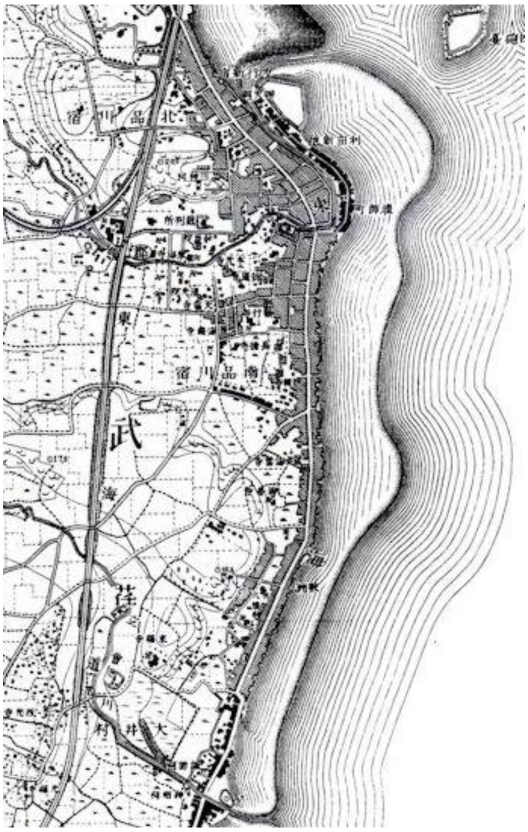
台場小学校を訪ねた後、再び東海道（品川宿）に戻って「まち歩きマップ」にある多くの史跡跡や寺社、そして残された特徴的な建物などを探しながら歩く。

ただし、高杉晋作、伊東博文らが密議して英国公使館の焼き打ちを実行して幕末の歴史の舞台となったという大妓楼の「土蔵相模跡」、徳川家光と沢庵が禅問答をしたという「問答河岸跡」「品川宿本陣跡」などの多くは、石碑が立つだから、刻まれた説明文を読むだけになる。

それに比べて、龍などを巧みに描いた伊豆長八の作のこて絵の善福寺、レンガ塀のある正徳寺・天龍寺、かつては江戸湾が一望できたと思われる品川富士が境内にある品川神社、三重塔が迎えてくれる本光寺などの寺社には、見るべきものがある。

新旧の地形図を重ねたもので明らかになったように、明治期までの海岸の堤は旧東海道から一、二本東側の通りに位置するはずだ。次は、かつての海岸線の痕跡を探す。南品川2丁目の裏通りで注意深く探すと、その面影を残す石積みを発見して、海がせまっていたことが少し実感できるだろう。





旧品川宿辺り

北へ大きく曲がっていた目黒川の流路跡や、かつて砂浜や海であったところは、新しい埋め立て地（右端）よりも、ずっと標高が低い

（デジタル標高データ（Google）と1/20,000地形図）

正徳寺レンガ塀と品川神社の品川富士

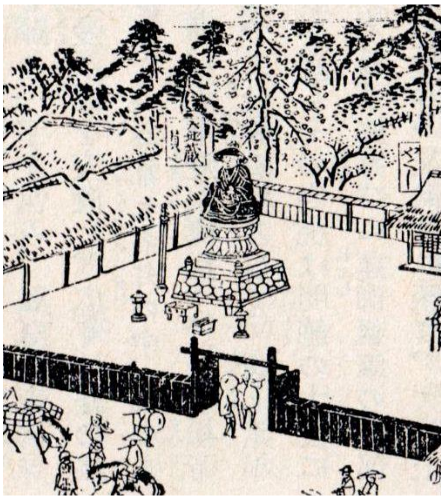
本光寺三重塔と南品川２丁目海辺跡残す石積み

むかし懐かしい木造建築と銅葺き建物

これ以外にも、見どころはいっぱいあって紹介しきれない。皆さんは、「まち歩きマップ」をもとに、かつての海（跡）を見る、古い石塀や井戸、建物などを探す、そして有名人の墓や石仏・銅像をなどといったテーマを決めてめぐるといいだろう。

品川宿の女性や餓死者などが投げ込まれた海蔵寺で当時の女性の哀しみを想い、各所にある古い井戸をのぞき、旧街道に並ぶ駄菓子屋・履物屋・畳屋などの店先をのぞきながら、立会川駅近くの坂本竜馬像へと向かう。

私が訪ねたときには、大河ドラマの「竜馬伝」が放映中ということもあって、像の辺りにはたくさんの人が詰めかけ、ボランティアの説明に耳を傾けていた。特に意味はないが？最後は、鈴が森刑場へ送られる罪人の親族が、ひそかに見送ったという涙橋で、その昔に思いを馳せてお終いとする。



品川寺六地蔵（「江戸名所絵図」）

「新宿　千代女」との刻みがある蓮長寺の古井戸と立会川駅近くの竜馬像

浜川砲台跡辺り

（もっと詳細に歩くなら以下のようになる）

**その 30-2　品川宿で、かつての海を見る　（距離約 7km）**

**【道順】**

00 京浜急行北品川駅→01 品川宿始まり→02 問答河岸碑→03 土蔵相模跡→04 北品川橋・船溜り→05 利田神社の鯨塚→06 台場跡の台場小学校→07 こて絵の善福寺→08 法禅寺板碑（遺墳碑）→09 小泉長屋の古井戸→10 養願寺→11 一心寺→12 正徳寺のレンガ塀→13 品川本陣跡・聖蹟公園→14 品川橋→15 荏原神社→16 品川富士→17 板垣退助墓と品川神社→18 三重塔の本光寺→19 清光寺働く会水香場と清光寺→20 天龍寺とレンガ塀→21 投げ込み寺海蔵寺→22 願行寺しばり地蔵→23 蓮長寺の古井戸→24 海徳寺→25 南品川１丁目銅葺き→26 南品川２丁目海辺跡→27 長徳寺閻魔さま→28 松岡畳店→29 真了寺門扉→30 品川地蔵の品川寺→31 格天井纏図の海雲寺→32 海晏寺→33 旧仙台坂→34 芭蕉碑の泊船寺→35 大井公園東坂→36 山内容堂墓地→37 勝島運河→38 東大井 2 丁目珍景→39 浜川砲台跡→40（浜川橋）涙橋→41 坂本竜馬像→42 立会川駅

+＊＊＊+　オフィス　地図豆　yamaoka　mitsuharu　+＊＊＊+